

---

タイトル… 汐製菓会社の新作のアイス

2

---

### 登場人物

- ・ 汐（しお）… 30代、汐製菓会社社長。  
奇抜で大胆な発想が特徴。過去の成  
功体験に基づき、常に「新しいもの」を  
追求。

- ・ 塩田（しおた）… 30代、汐の秘書。常識  
的で真面目。社長の奇抜な発想に振り  
回されがちだが、内心ではそのアイデア  
に感心することも。

---

シーン1：オフィスでの提案（0:00～

10:00）

（オフィスの中、汐がホワイトボードに「パエリア味アイス」と大きく書いている。）

汐…（興奮気味に）「見てくれ、塩田くん！

次の大ヒット商品が決まったぞ。『パエリア味アイス』だ！」

塩田…（一瞬フリーズし、手にしていた書類を落とす）「……社長、何をおっしゃってるんですか？」

汐…「文字通りだよ！パエリア味のアイスだ。バニラとエビ、そしてサフランの香りが完璧にマッチする。これで世界が驚くぞ！」

塩田…（ため息をつき、頭を抱える）「ええつと、もう一度確認します。パエリア味のアイスって、あのスペイン料理のパエリア、ですよ  
ね？」

汐…「そう！正解！」

塩田：「それをアイスに……？無理ですよ、誰がそんなもの食べたいと思うんですか？」

汐：「そこが君の見落としだ、塩田くん。『誰も思わない』からこそ、やるんだよ！思わないことをやる、それがウチの強みだろ？」

塩田：「でも、普通のアイスは甘いですし、お客様さんが混乱するんじゃない……」

汐：「いやいや、甘さと塩気のバランスこそが最高の味覚体験を生むんだよ！まさにパエリアだ、料理とスイーツの融合！」

塩田：「（心の声で）本当にそんなことを信じてるのかしら……」

（汐がポケットからメモを取り出し、熱心にアイスの配合を話し始める。）

汐：「エビを少し控えめにして、サフランは大胆に！それから……そうだ、米の粒がアクセントになるんだ！」

塩田…「米…まさかアイスに米まで入れるんですか？それはさすがに……」

汐…「ああ、米だ！日本人もスペイン人もみんな米が好きだろう？最高のマリアージュだ！」

（塩田、言葉を失うも、何とか意見を言おうとするが、汐はすでに次のステップへ進んでいる。）

---

## シーン2：試作室での奮闘（10:00～25:00）

（試作室に移動。研究員たちが不安そうな顔をしている。）

研究員A…「社長、本当にパエリア味のアイスなんて作るんですか？」

汐：「もちろんだ！常識に囚われていたら、大ヒットは生まれえない。さあ、エビとサフラン、それから米を混ぜて！」

研究員B：「米……アイスにですか？」

塩田：（苦笑いしながら）「ええ、米も、です。」

汐：「よし、まずはバニラベースのアイスを作つて、そこにエビの香りを足していこう。塩田くん、君も味見してくれ！」

塩田：「え、私ですか？（嫌な予感を感じつつ）わ、わかりました……」

（試作品ができあがり、汐と塩田が試食する。）

塩田：（一口食べて驚いた表情）「……ん？意外と悪くない……かも？」

汐：「だろう！ほら、塩気と甘みのバランスが  
絶妙なんだよ！」

研究員 B：「でも、エビの殻が少し残ってるよ  
うな……」

汐：「それは細かくすれば問題ない！次の試  
作品ではさらに改良だ！」

塩田：「（小声で）もう何がなんだかわからな  
い……」

（数回の試作失敗や、予想外の化学反応が  
起こるギャグを織り交ぜつつ、なんとか商品と  
して形になる。）

---

シーン 3：日常の息抜きとお菓子の雑談

（25:00～35:00）

（場面は塩田の自宅。塩田がリラックスして、いつものようにお気に入りのお菓子を食べている。）

塩田：「はあ……今日も疲れたな。でもこのガトーショコラ、最高においしい……（一口食べる）」

（電話が鳴り、汐からの連絡が入る。）

汐：「塩田くん！今度はウナギのかば焼き味のアイスも考えてるんだけど、どう思う？」

塩田：（焦って）「ちよ、ちょっと待ってください！まだパエリア味も完成してないのに、次はウナギって……！」

汐：「常に次のステップを考える、それが成功の秘訣だろう？」

塩田：「（深いため息をつきながら）もう何でもアリですね……」

シーン4：商品発表会の大混乱（35:00～  
45:00）

（汐製菓の大ホールで、メディアやバイヤーを集めた新商品発表会が開かれる。ステージ上には大きな「パエリア味アイス」の模型が設置されている。）

司会者：「皆様、本日は汐製菓の新作『パエリア味アイス』の発表会にお越しいただき、誠にありがとうございます！」

塩田：（裏方で焦りながら準備）「大丈夫かしら……」

（汐がステージに登場し、堂々とプレゼンを開始。）

汐：「みなさん！これが次世代のスイーツ、パエリア味アイスだ！バニラとエビの香りが融合した、新感覚のデザートです！」

（会場がざわつき始める。観客の中には困惑した表情を浮かべる者も。）

観客 A：「え、パエリアがアイスになったの？冗談じゃないの？」

観客 B：「面白いアイデアだけど……食べられるのかな？」

（試食タイムが始まり、来場者が半信半疑でアイスを手取る。）

塩田：「はあ、どうなることやら……」

（最初の一口が恐る恐る食べられ、少しずつ反応が変わっていく。）

観客 A：「……ん？あれ、意外と美味しい！」

観客 B：「うん、クセになるかも。これは面白いね！」

（徐々に会場全体が盛り上がり、メディアも興味を持ち始める。）

---

シーン5:スペイン進出への期待と恐れ

(45:00 ~ 55:00)

(数ヶ月後、パエリア味アイスが国際的に注目を集め、ついにスペインでのイベントが決定。)

塩田:「社長、ついにスペインから正式にオフア―が来ました。スペインのテレビでも取り上げられてますよ!」

汐:「ついにここまで来たか!やはりパエリアの本場で認められるとは、我々の勝利だ!」

(現地のスペインでイベントが行われ、地元民が驚きの表情でアイスを味わう。)

スペイン人A:「こんなの初めて食べた!」

スペイン人B:「パエリアがこんな風になるなんて!新しい発見だ!」

（塩田は、現地での成功を見届けながら、次なる奇想天外なアイデアが来るのではと不安を感じている。）

---

### シーンの次なる挑戦（55:00～60:00）

（日本に帰国し、汐製菓のオフィスにて。）

汐：「さて、塩田くん！次は『うどん味アイス』だ！」

塩田：（絶望的な表情）「またですか……」

（シーンは笑いに包まれつつフェードアウト。）

---

### エンディング